

薬効解析学研究室



総合学術研究科・薬学部医療薬学科

教授 伊藤幹雄
(岐阜大学医学博士)

大学院担当科目:薬効解析学特論
専門:薬理学, 消化性潰瘍, 糖尿病, 腎臓疾患
研究室:八事キャンパス4号館3階
電話:代表 052-832-1781 (内線283)
Fax: 052-834-8780 (8090)

E-Mail: mitoh@ccmfs.meijo-u.ac.jp

研究室のメンバーは現在、伊藤幹雄教授と小島良二助手と大学院修士1年1名（大学院総合学術研究科）と4年生卒論生2名、ゼミ演習コース生5名の計10名です。研究テーマは下記に示すごとくで、薬理学や分子生物学的な研究に興味ある方は、研究室で受け入れることができます。

研究テーマ：

- 1) *Helicobacter pylori* (*H. pylori*) と消化器疾患との関連性および *H. pylori* の除菌法に関する研究：天然に存在するポリフェノール（フラボノイド化合物、お茶の主成分、カテキン）は抗酸化作用や抗菌作用を有し、植物界に広く分布しており、これらの化合物を中心とした併用療法による *H. pylori* 除菌法と除去により、胃炎、消化性潰瘍および胃ガンなどの消化器疾患の発症・進展が予防できるかどうかを研究しています。
- 2) 糖尿病性腎症の発症・進展機構の解明に関する研究：現在、高血圧、肥満、糖尿病は「生活習慣病」と呼ばれ、その疾患の発症には、遺伝的素因と環境的素因が相互に関与していると言われていています。研究室では、肥満で、高インスリン血症、インスリン抵抗性（インスリン作用障害）を特徴とする遺伝性肥満糖尿病を示す KK-A^y マウスや培養腎臓細胞を使用し、高脂肪食と糖尿病性腎症の進展との関連について分子生物学的手法を基礎に研究しています。
- 3) 腎臓疾患で高発現する遺伝子の機能解析に関する研究：腎臓は、糸球体と呼ばれる場所で血液を濾過しそれに続く尿細管という部位で身体に必要な物質を再吸収し、不必要な物質を尿として体外に排泄することにより、身体のいわゆる”恒常性”を維持する重要な器官です。この臓器疾患は生命維持の危険を伴うと言っても過言ではありません。研究室では、腎臓病に関わる新規の遺伝子の機能を分子生物学的に解明しています。